



園からの便り
ひぐらし

芝と排水と私

初夏に近づくにつれ、草木の成長もぐんと勢いを増す。そして、ここからまた、園庭に芝刈り機を走らせる季節がやってくる。

ひさしぶりに回すエンジンの響きは快調だ。気持ちよく園庭に滑り出すと、あつという間に子どもたちに囲まれる。

「園長先生、何やってるの?」

どんな作業をしても、第一声はいつもこれだ。芝刈りという大人には単純な作業であつても、これを子どもが納得できるように説明するというのは、案外簡単なことではない。

相手の理解力もそれぞれなので、うまく返していかないと、この質疑応答の応酬は永遠に終わらない。そしてそれを、後から後から登場する子どもたち一人一人に応じては、作業が一向に進まないという事態が生じてしまうのだ。

しかし私には、この長年の鍛錬により

会得した、相手を黙らせてしまう必殺の返し技がある。

「見ていれば、わかる」

その言葉を聞いた者から、さらに切り返されたことは、まだ一度たりともない。

「何してるの?」と問い掛けることのできる思考力がある子どもであれば、この私の言葉には、「そりやそうだ」と納得してくれるようなのだ。

そして、しばらく傍らで観察した後に、「○○をしてるんだね。」と伝えてくれる。その言葉に「そうそう」と相槌をうちながら、子どもの理解力や語彙力に応じて、そんなうまい表現があつたのか!と、密かに私の方が学んでいる…一粒二度美味しい、そんな必殺の言葉なのである。

そして、この言葉を使う時は、「わかる」の前に、「きつと、お前なら」という思いを込めることを忘れないでいたい。

芝刈り機の登場に歓喜するのは、主に幼児期の子どもたち。
パタパタとエンジン音を響かせて、ぐ

いぐいと突き進む芝刈り機の前方で、戦隊ヒーローよろしく、えい!と両手を突き出し戦闘ポーズを決めながら、迫り来る芝刈り機から逃げ回るのが、本当に楽しいらしい。

芝刈り機の袋が、刈り取った芝でいっぱいになると、一旦エンジンを止め、それをビニールのゴミ袋へと移す。そして、世界の平和を守るため、その袋を、エックスアサと門の脇へと運んでいくのも、ここのヒーローたちの仕事。

袋を置くやいなや、舞戻ってくるのと、「さあこいー」と、再び前方で、身構える子どもたち。こんな戦いを6回ほど繰り返すと、この時期の芝刈りは終了する。

今年の5月は、思いの外、雨降りが多い気がする。

園庭の築山に設けた幅の広い滑り台は、その斜面が大きな雨受けとなり、その度に麓には大きな水溜まりができる。するとそこは、絶好の池遊びの場所に化け



るのだが、乾く前にまた雨が降ると、一向に滑り台が使えないという状況が続いてしまう。

そこで活躍するのが私が買い揃えた排水キット。赤い手引きワゴンの中には、電動ポンプやホース一式がセットされていて、そろそろかなというタイミングで、コロコロとワゴンを引

きながら、また私が登場するのである。

この時に集まってくるのは、どちらかというと少し年齢が下の子どもたちか。

ホースリールを回してみたり、汲み出す水で膨らむホースを押してみたり、その上を綱渡りのように渡るうとしたりと、少し厄介なこの子たちに、「見ていればは…」は通じない。

いちいち私に問いかけない代わりに、ホースの継ぎ目から、細く高く噴き上がる噴水に、嬉々として手を



かざそうとしている。とにかく何でもいじってみたくて…私が何をしているのかわかなくて、どうでもよいわけだ。この子たちに掛けるべき言葉は、「触ってみれば、わかる」となるに違いない。

見ればわかる者もいれば、触れなければわからないという者たちもいる。

一体全体、「わかる」とは何だろう。

ただこうやって、子どもたちは教えてくれる。人は、わかりたいと思うことしか、わからない…けれど、わかりたいと思うことは…自ずと…わかっていく。

園長 折井誠司

- 編集 幼保連携型認定こども園せいび
 - 編集人 折井 誠司
 - 発行人 折井 誠司
 - 印刷所 幼保連携型認定こども園せいび
 - 発行所 社会福祉法人 誠美福祉会
- 〒192-0364 東京都八王子市南大沢5-1-2
電話 042-667-1155
ファックス 042-677-5643
Email seibi@kodomoakyo.jp
http://kodomoakyo.jp